

## 児童養護施設における職員の業務負担感に関する分析

嘱託研究員 有村大士（日本社会事業大学大学院）  
子ども家庭福祉研究部 才村 純・澁谷昌史・庄司順一  
嘱託研究員 伊藤嘉余子（福島学院大学）

**要約：**本稿は、平成14年度厚生労働科学研究「児童福祉施設等における被虐待児童の実態に関する調査研究」（主任研究者 才村 純）の二次分析である。本稿では、①「職員の業務負担感を左右する要素」、②「規模による職員の業務負担感」の2つの分析で構成される。①では、職員の業務負担が、その職員の勤務年数や資格、及び研修参加などの要素との関連を調べるため、尤度比カイ二乗統計量を利用した探索的分析を行った。その結果割り出した精神的負担と身体的負担それぞれに影響の強い因子について、その因子の影響と傾向を調べた。②では、施設規模の大きさによる負担感の違いを調べた。この結果、負担度を低減する要素として、ルーティンワークなどの日常的な業務には組織としてのノウハウが重要であり、逆に子どもの情緒や行動等への対応には、職員一人ひとりのコンペテンシーの高さが重要であることがわかった。さらに、子どもへのサービス提供にあたり、それぞれの業務に対する負担感は、規模が小さい方が少ないことがわかった。

**見出し語：**児童養護施設、業務負担、施設規模

### Analysis concerning the worker's sense of burden in children's home

Taishi Arimura, Jun Saimura, Masashi Shibuya, Junichi Shoji, Kayoko Ito

This report is the re-analysis of "Surveillance study on abused child child's realities such as facilities for children's welfare (2002)". This report consists of two analyses; ①associates that relates to worker's sense of burden; ②worker's sense of burden by size of facilities. In the former, the factors with a strong influence were analyzed by the likelihood-ratio chi-square statistic a mental load and a body load. In the latter, the difference of the sense of burden according to the size of the facilities was examined. As a result, the associates have been understood. Effective associates are know-how of organization and each worker's competencies. In addition, service to the children in a small group is comparatively few the sense of burden.

**Key Words:** Children's home, Worker's sense of burden, Size of facilities

## I. 目的

これまで児童養護施設でサービス提供を行う際の職員の側が感じる負担について、客観的に評価した研究は少ない。

さらに、近年では、児童養護施設に入所する被虐待の子ども割合の急増などにより、子どもの複雑化、深刻化する多様なニーズへの有効な対応が求められる中で、できるだけ小規模で、家庭に近い環境を保障すべきという議論がなされている。しかし、小規模でのサービス提供にどのような長所があるのかを示す量的な研究は少ない。

本研究では、児童養護施設で子どもに直接的にケアを提供している職員の業務負担に焦点を当て、①施設形態ごとの業務負担の違いがあるのかということ、②小規模でのサービス提供にどのような特徴があるのかを明らかにするのが目的である。

## II. 研究方法

平成14年度厚生労働科学研究「児童福祉施設等における被虐待児童の実態等に関する調査研究」(主任研究者:才村 純)によって得られたデータを再分析する。①「職員の業務負担感を左右する要素」、②「規模による職員の業務負担感」の2点について分析を行う。①では、業務負担に影響を与えている因子を、尤度比カイ2乗統計量を手がかりに、探索的に影響の強い因子を割り出した。その上で、影響力が強い因子それぞれ上位3項目について調整を加えたロジスティック回帰手法にてあてはめ、カイ二乗検定でモデルの有意度を検証した。なお、分析に際して、連続尺度に関しては誤差平方和を基準として、最も誤差平方和が大きい値で分割し、カテゴリカルな尺度と同様に扱った。

②では、施設規模、形態に応じて、職員の業務負担度の違いを、カイ二乗検定を使用し、分析した。この際、平成14年度データでは、施設種別として職員が従来型の施設に、グループホームが併設されている場合、その職員がどちらにつとめているかを把握できなかったため、「大舎制」と「小舎制、グループホーム」のどちらかに該当する施設のみでカイ二乗検定を行った。

①②において、業務の内容については、平成14年度調査時に使用された業務コードの大項目に準じて、「ル

ーティンワーク」「子どもの情緒や行動等への対応」「施設外資源と関係する業務」「会議、記録、実習対応」の4項目を使用した。なお、実際のタイムスタディでは、上記に「その他」を加え、5項目であった。

## III. 解析結果<sup>ii</sup>

### 1. 業務負担感を左右する要素

#### 1-1. ルーティンワーク

##### a. 身体的負担

上位の項目は、「経験10年以上の職員」「経験15年以上の職員の割合」「施設内研修への参加回数」であった。(表1)上記の項目について、2項目間の関係を調べたところ、経験年数が長い職員の割合が多いほど、負担度が減る傾向となった。(図1-1-1, 1-1-2)また、施設内研修の参加回数が多いほど、負担度が減る傾向となった。(図1-1-3)このデータだけでは判断できないが、施設内研修は、施設外研修と比較し、すべての職員が参加しやすいことが予想されるので、勤務経験年数に一定程度関係があると予測できる。また、「施設における勤務年数」より上記の項目、及び「社会福祉施設・機関における勤務年数」が強い影響を与えているが、これによりその施設での勤務経験に限らず、実践経験が負担度を下げる因子となっていた。

##### b. 精神的負担

精神的負担も、身体的負担と同様に、「経験10年未満の職員の割合」「経験15年以上の職員の割合」「施設内研修への参加回数」の3項目が上位となり、傾向も身体的負担とほぼ同様であった。

#### 1-2. 子どもの情緒や行動等への対応

##### a. 身体的負担

上位に挙げたのは、「施設外研修への参加回数」「施設内研修への参加回数」「施設における勤続期間」の順であった。(表1)それぞれ、参加回数、あるいは期間が長いほど、負担感は少なくなった。(図1-2-1, 1-2-2, 1-2-3)

##### b. 精神的負担

身体的負担と同様、「施設外研修への参加回数」が最も尤度比カイ二乗統計量が大きかった。次に「施設における勤続期間」「児童指導員任用資格」が挙がってきた。(表1)「施設外研修への参加回数」と「施設における勤続期間」については、身体的負担と同様の傾向であった。

(図 2-2-1, 2-2-3)「児童指導員任用資格」では、より専門的な教育を受けていると思われる第 1～3 号のほうが、第 4～5 号より負担を感じていることが分かった。(表 2-2-3)

iii

## IV. 考 察

### 1-3. 施設外資源と関係する業務

#### a. 身体的負担度

尤度比カイ二乗統計量が最も大きかったのが「最終学歴」であった。ただし、「最終学歴」については、特に学歴が長いと専門性が高まるといったような一貫した特徴は見受けられなかった。続いて統計量が大きかったのが、「施設における勤続期間」「社会福祉施設・機関における勤務期間」であった。(表 1)「施設における勤務期間」「社会福祉施設・機関における勤務期間」では、勤務期間が長くなるほど身体的負担度は低くなることが分かった。(図 1-3-1, 1-3-2)

#### b. 精神的負担度

「施設外研修の参加回数」「施設における勤務期間」「現員数(入所)」「入所率」が挙げられた。(表 1)しかし、統計的な有意性は確認できなかった。

### 1-4. 会議, 記録, 実習など

#### a. 身体的負担

「経験 5 年未満の職員の割合」「経験 10 年未満の職員の割合」「職員数÷入所中の子どもの数」の順であった。(表 1)「経験 5 年未満の職員の割合」「経験 10 年未満の職員の割合」では、経験年数の長い職員の割合が多いほど、身体的負担は少なかった。(図 1-4-1, 1-4-2)「職員数÷入所中の子どもの数」では、対応すべき子どもの数が多くなるほど、身体的負担感は高くなっている。対応すべき子どもの数や事項が増えることは、身体的負担感に結びつくことが予測される。(図 1-4-3)

#### b. 精神的負担

「経験 10 年未満の職員の割合」「認可定員数(入所)」「現員数(入所)」の順になった。(表 1)「経験 10 年未満の職員の割合」が増えるほど、精神的負担は弱くなる。(図 1-3-1)「認可定員数(入所)」「現員数(入所)」については、規模が小さくなるほど、精神的負担は少なかった。

### 2. 施設規模による職員の業務負担感

カイ二乗検定を行った結果、有意であったのは「ルーティンワーク」と「子どもの情緒や行動等への対応」であった。結果を見てみると、小舎制、あるいはグループホームの形態をとっている施設では、大舎制より、精神的にも身体的にも有意に負担感が低いことが分かった。(表 3-1, 3-2,

3-3, 3-4)

#### 1. 業務内容別に見た負担感へ影響を与える要素

本稿の最も重要な成果は、負担感に影響がある要素が俯瞰的に見えることであろう。「ルーティンワーク」や「会議、記録、実習対応」といった、子どもの生活を保障するために日々決まってしまう業務については、経験年数が長い職員の割合が大きな要素として挙がっていた。組織として培ってきたノウハウや経験が重要であると考えられよう。

逆に、「子どもの情緒や行動等への対応」では、尤度比カイ二乗統計量が最も高い項目は、「施設外研修への参加回数」であった。このことから、「子どもの情緒や行動等への対応」への負担感を減らすには、施設内で培われたノウハウより、研修などで施設外から得る知識やノウハウなどが重要となってくることが分かる。さらに、「ルーティンワーク」や「会議、記録、実習対応」と対照的に、「子どもへの情緒や行動等への対応」では、経験年数の長い職員の「割合」よりも、職員個人の「施設における勤続期間」が重要な要素として挙がってきている。つまり、「組織」というより「職員(個人)」のコンピテンシーが大きな要素となる。

「施設外資源と関係する業務」では、尤度比カイ二乗統計量が低いことや、あるいは尤度比カイ二乗統計量が上位の項目でも、統計的な有意が認められないなど、今回業務負担との関係性を調べた項目では強い影響力のある項目が見当たらなかった。これによって、学校、地域、あるいは児童相談所や子どもの保護者や親族などといった施設外の資源との関係性の中に、業務負担を左右する要素がある事が示唆される。

#### 2. 職員の専門性

先に述べたことと重なる部分もあるが、仮に、職員の専門性と負担度が正負に関わらず関連性があると考えた場合、専門性には大きく分けて 2 つの要素が想定できよう。1 つ目は、「日常的に繰り返す業務への専門性」で、長年培ってきた施設内でのやり方やノウハウなどを専門性とみなすことができる。2 つ目は、「子どもの情緒や行動への対応」で見られた、「職員個人が持つコンピテンシーの高さ」を専門性とみなすことができよう。どちらも児童養護施設が子どもの生活の場であると同時に、子どもの心身の傷を癒すためのケアの場であることから欠かすことでは

きず、両方をいかに高めていくかが求められる。

### 3. 施設外研修の重要性

平成14年度の分析では、「子どもの情緒や行動等への対応」は「負担感が強い業務として多くあげられた」にも関わらず、「必ずしも業務時間が長くない現状」<sup>i)</sup>が報告されている。しかし、被虐待児童の入所増加などにより、子どものニーズが多様化している現状を考えると「子どもの情緒や行動等への対応」業務は今後も増加し続けることは容易に想像できるし、さらに丁寧な対応が求められている。従って、対応時間が短くても重要性は高い。職員一人ひとりのコンペテンシーを高めることは重要で、更に多く外部での研修会が開催され、できるだけ多くの職員が外部から新しい情報や知識を得られるようシステムの構築をすることが求められよう。

### 4. 小規模化と職員の負担度

特にサービス提供の単位が小さくなり、より家庭に近くなればなるほど、職員の交替が困難となることや、子どもとの関わりが長くなり休憩が取りにくいことなどを指摘する意見もある。今回のデータからは、勤務時間は別としても、サービス提供単位が小規模である方が負担感は低いことが分かった。児童養護施設だけでなく、一時保護所などもそうであるが、様々な課題やニーズを抱えた子どもたちが共に入所する。言い換えれば課題を抱えた子どもたちを集めているようなものであり、その子どもたちの持つ課題自体が相互作用を行っているようなものとも見ることができよう。従って、その相互作用が少ないほうが問題の発生も少ないことが予想される。もちろん入所人数が少ないほうが、相互作用が物理的に少なくなることは言うまでもない。また、入所人数が少ないほうが、子ども一人ひとりに継続して対応できる時間は物理的に延びるというメリットもあろう。今回の分析方法からは分析に限界がある部分であり、今後更なる調査・分析が必要であらう。

<sup>i)</sup> 「小舎制」、「グループホーム」、「小舎制とグループホームの両方」を採用している施設が含まれる。

<sup>ii)</sup> 単純集計などのデータや調査票、及び業務コード等は、平成14年度厚生労働科学研究「児童福祉施設における被虐待児童の実態等に関する調査研究」報告書に掲載されている。前記報告書を参照されたい。

<sup>iii)</sup> 児童指導員任用資格は、以下の5つの要件をいずれか満たすこととなっている。

- ①厚生労働大臣の指定する児童福祉施設の職員を養成する学校か、その他の養成施設を卒業した者
- ②大学の学部で、心理学、教育学または社会学を修めて卒業した者

③小学校、中学校または高等学校の教諭の資格をもつ者であって、厚生労働大臣または都道府県知事が適当と認定した者

④高等学校を卒業した者であって、2年以上児童福祉事業に従事したもの

⑤3年以上児童福祉事業に従事した者であって厚生労働大臣または都道府県知事が適当と認定したもの

<sup>iv)</sup> 才村 純他「児童福祉施設等における被虐待児童の実態等に関する調査研究」平成14年度厚生労働科学研究報告書、P. 429

表1 身体的・精神的負担度への影響（尤度比カイ二乗統計量と順位）

項目	身体的負担				精神的負担											
	ルーティンワーク		子どもの情緒や行動等への対応		施設外資源と関係する業務		会議、記録、実習対応									
	尤度比 カイ二乗	順位	尤度比 カイ二乗	順位	尤度比 カイ二乗	順位	尤度比 カイ二乗	順位								
1 その時対応した子どもの人数	319.4	8	12.7		9.3		8.4		485.9	8	8.7		18.0	7	18.5	
2 記入者の年齢	198.6		87.4	8	15.7	9	30.0		320.0		110.3	8	15.2		56.0	10
3 記入者の性別	121.5		118.8	6	10.7		21.3		248.2		141.7	6	11.0		14.5	
4 記入者の婚姻状況	96.1		78.3	9	6.0		13.5		116.9		101.7		3.0		12.7	
5 記入者の雇用形態	7.0		25.1		5.1		16.1		4.1		15.8		0.5		5.6	
6 施設における勤務期間	201.4		152.1	3	43.2	2	57.4		126.5		229.3	2	21.3	2	42.9	
7 社会福祉施設・機関における勤務期間	555.4	5	143.0	4	40.3	3	81.1	4	534.5	6	162.2	5	15.0		31.3	
8 社会福祉士	111.9		6.9		5.7		7.1		82.9		25.8		2.8		11.0	
9 保育士	16.7		17.5		1.0		5.4		68.2		35.8		3.5		0.5	
10 看護師	17.4		7.8		5.3		37.4		25.8		16.1		5.7		25.7	
11 保健師	11.2		2.5		17.9	6	22.5		10.1		10.3		12.0		15.1	
12 教員	26.4		99.4	7	5.9		5.2		127.5		140.8	7	13.5		8.4	
13 心理に関わる資格	81.2		8.4		2.4		36.0		94.2		22.9		0.8		12.3	
14 児童指導員任用要件	62.9		141.8	5	31.1	4	21.4		100.3		189.8	3	13.5		36.4	
15 最終学歴	415.4	6	50.8		43.8	1	25.8		357.5	10	65.5		19.6	5	33.3	
16 教育・心理・社会・社会福祉を専攻	9.0		40.8		1.7		5.9		64.2		41.2		7.3		5.5	
17 施設内研修への参加回数	644.5	4	190.2	2	12.3		76.3	5	1095.9	4	170.6	4	12.9		78.2	8
18 施設外研修の参加回数	68.9		248.7	1	14.8		42.5	10	119.1		286.5	1	23.4	1	23.5	
19 認可定員数/入所	313.4	10	38.7		12.5		45.9	8	505.9		105.6	9	19.8	6	151.4	2
20 現員数/入所	306.6		38.7		15.7	9	43.2	9	499.9	7	105.6	9	20.1	3	144.1	3
21 入所率	379.8	7	37.6		17.3	7	39.7		784.9	5	76.8		20.1	3	121.4	6
22 利用者一人あたりの居室面積	227.5		25.7		19.1	5	51.5		438.2	9	81.3		9.6		38.0	
23 経 験 5 年未 満 の 職 員 の 割 合	223.2		23.5		12.6		103.0	1	300.9		71.1		10.1		109.6	7
24 経 験 10 年未 満 の 職 員 の 割 合	1059.9	1	57.8	10	9.0		102.6	2	1301.0	1	75.6		15.2	10	157.0	1
25 年 経 験 15 年未 満 の 職 員 の 割 合	876.2	2	57.6		15.4		72.5	6	1240.1	2	77.0		16.4	8	139.4	4
26 数 経 験 15 年以 上 の 職 員 の 割 合	876.2	2	57.6		15.4		72.5	6	1240.1	2	77.0		16.4	8	139.4	4
27 職 員 数 / 入 所 中 の 子 ども 数	316.3	9	36.0		17.1	8	90.2	3	345.1		53.9		10.8		60.7	9

図 1-1-1 ルーティンワークにおける身体的業務負担と経験 10 年未満の職員の割合\*\*\*  
( $p < 0.001$  \*\*\*,  $p < 0.01$  \*\*,  $p < 0.05$  \*) ※以下同様

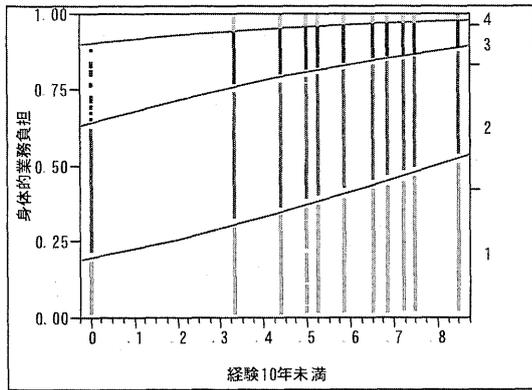


図1-1-2 ルーティンワークにおける身体的業務負担と経験15年以上の職員の割合\*\*\*

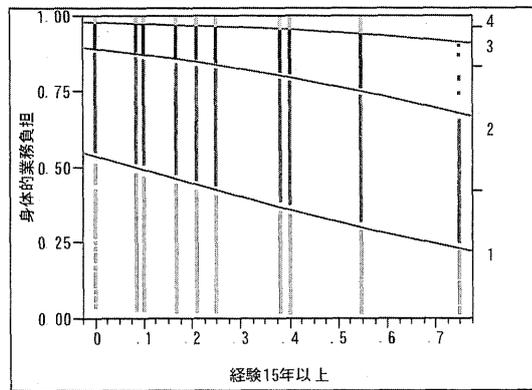


図1-1-3 ルーティンワークにおける身体的業務負担と施設内研修の参加回数\*\*\*

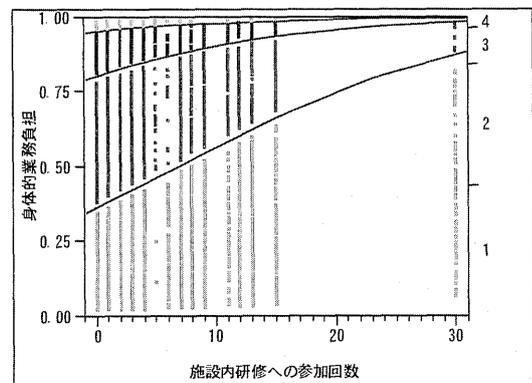


表1-2-1 子どもの情緒や行動等への対応における身体的業務負担と施設外研修への参加回数\*\*\*

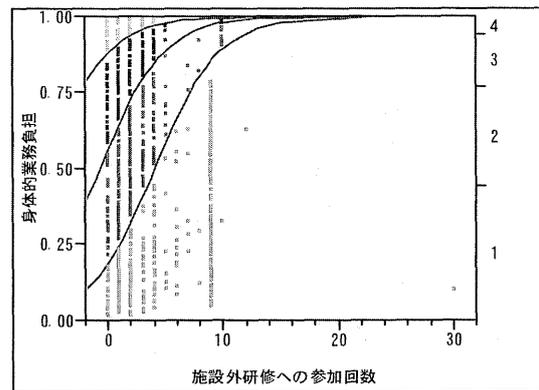


表1-2-2 子どもの情緒や行動等への対応における身体的業務負担と施設内研修への参加回数\*\*\*

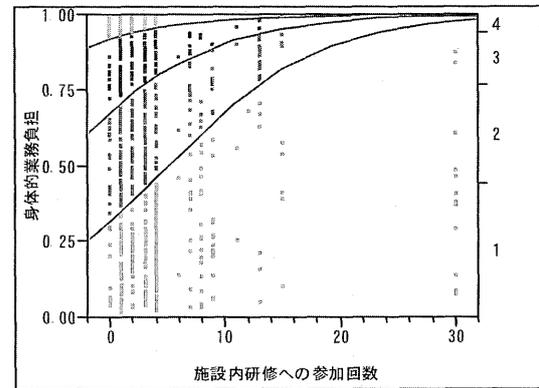


図1-2-3 子どもの情緒や行動等への対応における身体的業務負担と施設における勤続期間\*\*\*

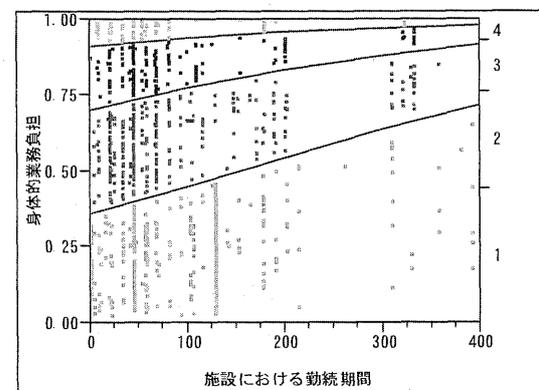


図1-3-1 施設外資源と関係する業務における身体的業務負担と施設における勤務期間\*\*

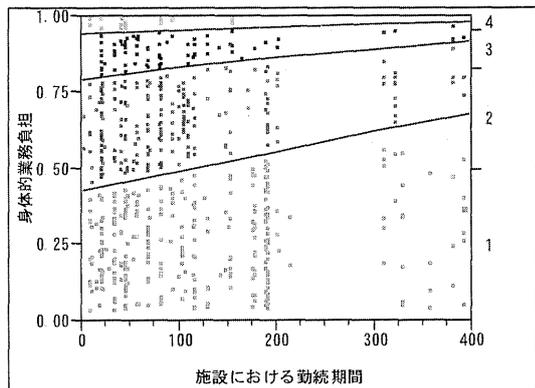


図1-4-2 会議、記録、実習などにおける身体的業務負担と経験10年未満の職員の割合\*\*\*

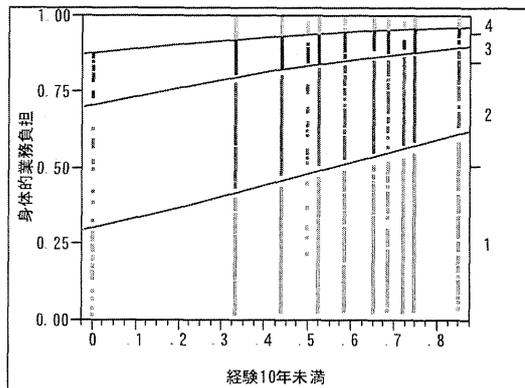


図1-3-2 施設外資源と関係する業務における身体的業務負担と施設・機関における勤務期間\*

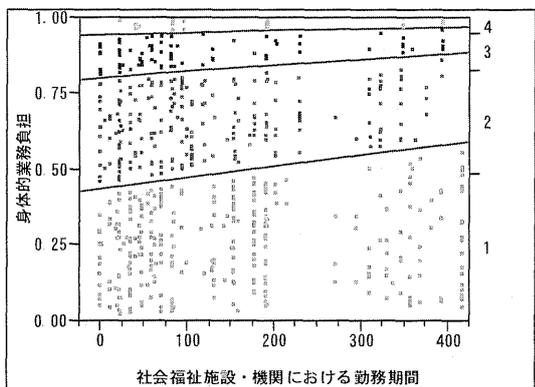


図1-4-3 会議、記録、実習などにおける身体的業務負担と子ども1人あたりの職員数\*\*\*

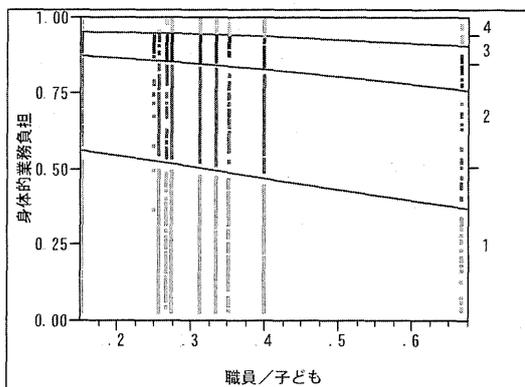


図1-4-1 会議、記録、実習などにおける身体的業務負担と経験5年未満の職員の割合\*\*\*

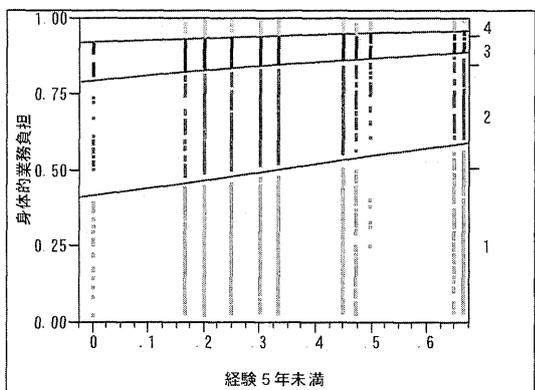


図2-1-1 ルーティンワークにおける精神的業務負担と経験10年未満の職員の割合\*\*\*

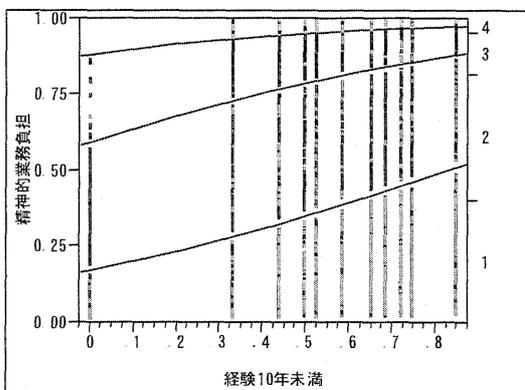


図2-1-2 ルーティンワークにおける精神的業務負担と経験15年以上の職員の割合\*\*\*

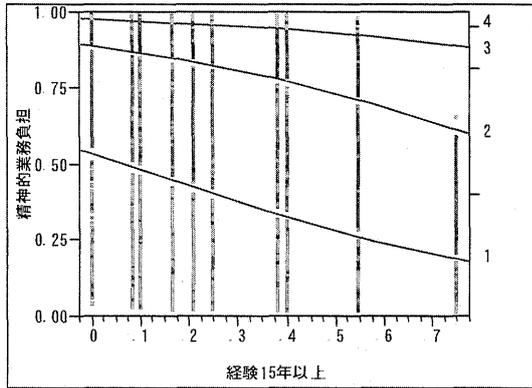


図2-2-2 子どもの情緒や行動等への対応における精神的業務負担と施設における勤務期間\*\*\*

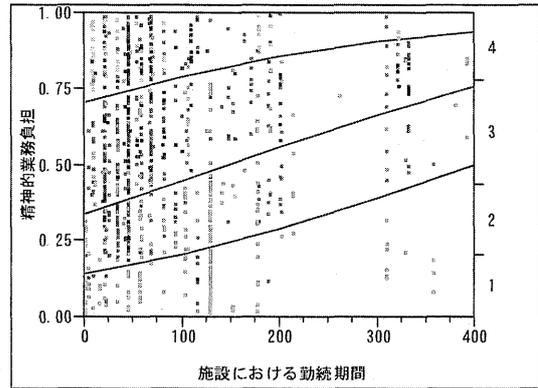


図2-1-3 ルーティンワークにおける精神的業務負担と施設内研修の参加回数\*\*\*

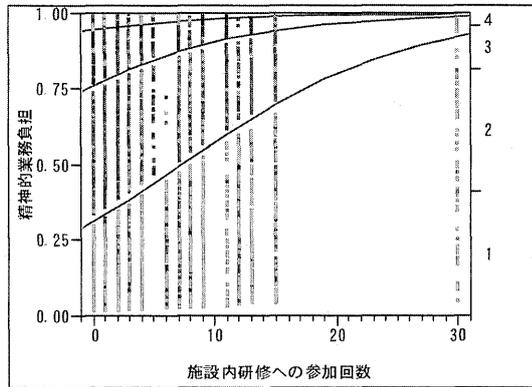


表2-2-3 子どもの情緒や行動等への対応における精神的業務負担と児童指導員任用資格\*\*\*

度数 行%	1	2	3	4	
第1号	8 20.51	16 41.03	10 25.64	5 12.82	39
第2号	23 7.62	47 15.56	127 42.05	105 34.77	302
第3号	4 26.67	4 26.67	1 6.67	6 40.00	15
第4号	138 51.88	60 22.56	52 19.55	16 6.02	266
第5号	0 0.00	6 35.29	9 52.94	2 11.76	17
	173 27.07	133 20.81	199 31.14	134 20.97	639

図2-2-1 子どもの情緒や行動等への対応における精神的業務負担と施設外研修の参加回数\*\*\*

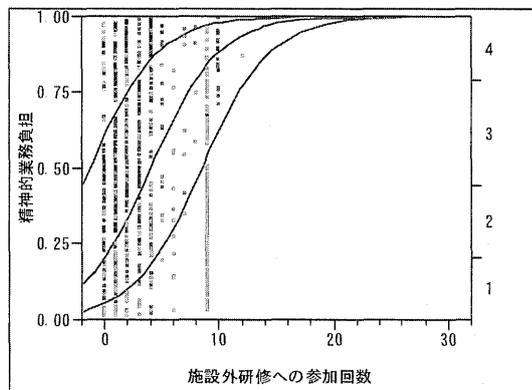


図2-4-1 会議、記録、実習などにおける精神的業務負担と経験10年未満の職員の数\*\*\*

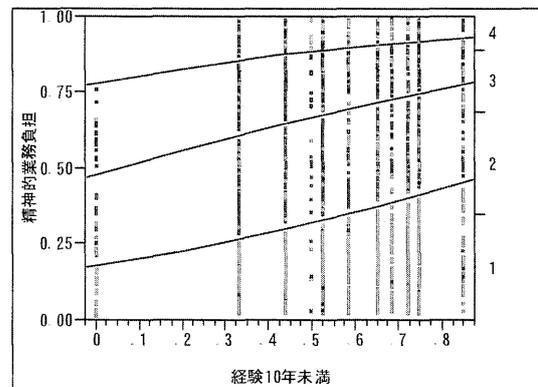


図2-4-2 会議、記録、実習などにおける精神的業務負担と認可定員数（入所）\*\*\*

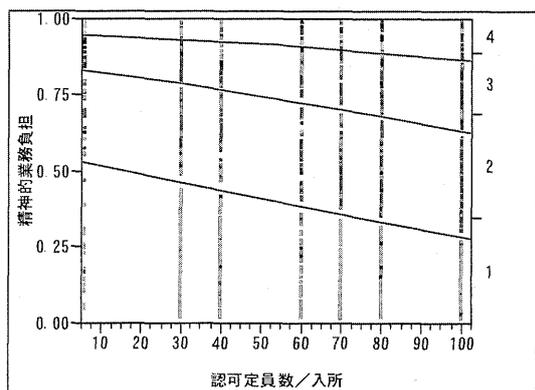


図2-4-2 会議、記録、実習などにおける精神的業務負担と現員数（入所）\*\*\*

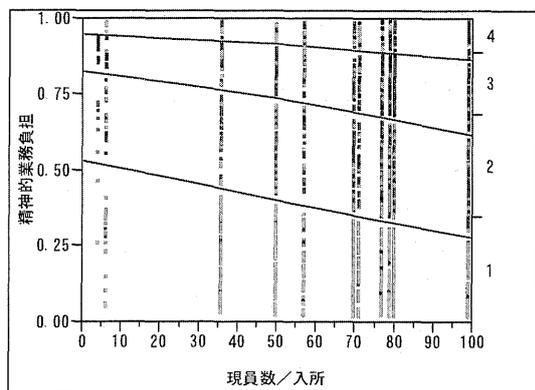


表3-1 ルーティンワークにおける施設形態と身体的業務負担の分割表\*\*\*

度数 行%	1	2	3	4	
大舎制	2010 33.16	2628 43.36	1056 17.42	367 6.06	6061
小舎制, グループホーム	2044 45.47	1818 40.44	489 10.88	144 3.20	4495
	4054 38.40	4446 42.12	1545 14.64	511 4.84	10556

表 3-2 ルーティンワークにおける施設形態と精神的業務負担の分割表\*\*\*

度数 行%	1	2	3	4	
大舎制	1781 29.53	2509 41.59	1268 21.02	474 7.86	6032
小舎制, グループホーム	2137 48.59	1714 38.97	425 9.66	122 2.77	4398
	3918 37.56	4223 40.49	1693 16.23	596 5.71	10430

表3-3 子どもの情緒や行動等への対応における施設形態と身体的業務負担の分割表\*\*

度数 行%	1	2	3	4	
大舎制	105 30.97	123 36.28	80 23.60	31 9.14	339
小舎制, グループホーム	45 41.67	43 39.81	9 8.33	11 10.19	108
	150 33.56	166 37.14	89 19.91	42 9.40	447

表 3-4 子どもの情緒や行動等への対応における施設形態と精神的業務負担の分割表\*

度数 行%	1	2	3	4	
大舎制	31 9.14	67 19.76	138 40.71	103 30.38	339
小舎制, グループホーム	17 15.74	32 29.63	37 34.26	22 20.37	108
	48 10.74	99 22.15	175 39.15	125 27.96	447